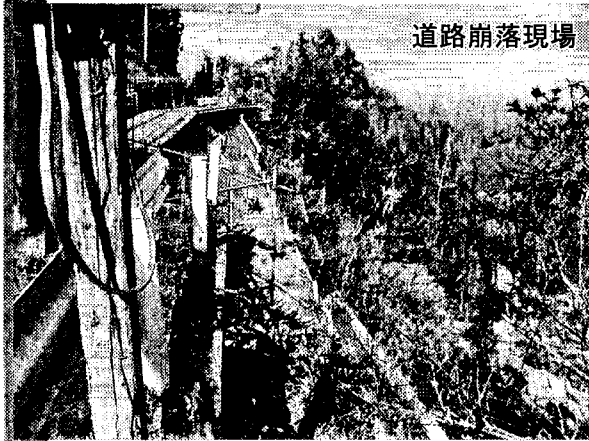


「すべての人に感謝」 「抜本的対策も要望」



宮摺地区自治会長の
木村速人さん



道路崩落現場

豪雨、道路崩壊： 2006年8月31日の大雨により、
県道野母宿線（長崎市茂木町宮摺トンネル付近）が崩壊。延
長50㍍、幅6㍍のほとんどが陥没した。さらに迂回（うかい）
路の林道でも道路の陥没が発生。幸いに人的被害はなかつ
たものの、近隣住民への影響は大きかった。

長崎土木事務所職員が徹夜で監視

宮摺地区自治会長の木村速人さ
んは、「9月1日の午前3時30分ご
ろに道路異常の報告を受けた」。真っ
暗な中、道路のひび割れを確認。早

朝、大崎など3地区へ有線放送で
通行止めの連絡を行った。日が昇
り長崎土木事務所の職員が到着。
「長崎土木事務所や茂木支所の皆
さんにほんとうによくしていただ
いた。特に土木事務所道路維持課
の方々は、徹夜で現地の監視をさ
れていた。頭の下がる思いだった」
と、昼夜を問わず監視を続け、その
後も早期復旧に向け
頑張る姿に感銘を受
けたという。

ただ、マスコミ報道などではあ
まり注目されないが、（社）長崎県建
設業協会長崎支部の動きにも目を
見張るものがあった。同支部は昨

年11月28日、大規模災害が発生し
た際、初期段階における緊急対応
を行うための支援活動に関する協
定書を長崎土木事務所および大瀬
戸土木事務所と締結している。

同支部事務局によると、「9月1
日午前9時ごろに長崎土木事務所
より、災害協定による出勤要請が
あった。すぐに当該ブロックの幹
事社などに連絡、わずか30分後
には幹事社が、1時間以内にはブロ
ック所属の7社が現地に到着。全
面通行止めの措置やガードマンの配
置を修了した」。経験豊富なプロ
集団の活躍も見逃せない。

木村自治会長は、「すべての人々
が熱心に取り組んでくれたことに
大変感謝している。今後は一刻も

建協長崎支部も素早い対応

早く、本格的な復旧を進めて欲し
い」とした上で、当該地区の抜本的
な安全対策を行うため、「迂回路の
整備やトンネルなどの整備が必要



仮復旧道路

不可欠。来年以降も同じ心配をし
なければいけない」と、不安ものぞ
かせた。9月28日に片側1車線で
仮復旧したものの、将来的不安は
消えてはいない。

公共事業費の削減
が続き、不要論まで
叫ばれる中、安心・安
全を確保し、県民の財産を守るた
め、県や市、建設業界が一体となっ
て努力していることを多くの方々
に知って欲しいものだ。

県道野母宿線が仮復旧

公共工事は必要です！